

特集・震災後の日本を読む(下)～今こそ防災を考える

うことです。逆に、「10」に達しない建物に関しては、先ほども申しましたように、耐震補強の計画書を依頼者にお渡しするようにしています。

—耐震補強工事を行なうと、リスクはどれくらい軽減されるものですか。

白水 一概には言えませんが、「10」という点数は震度7の大地震がきて、倒壊の恐れがないという目安の数値です。ひびが入る程度のことはあるかと思いますが、家の下敷きになって命を落とすというリスクは低くなります。ですが、同時に家具の固定など最低限の対策は個々でやっておく必要があります。依頼される方の多くは、その点の意識が高い方が多いので、最低限の対策は

行っている傾向にあります。

補助金制度の周知が課題

—耐震については補助金の制度もあります。昨年度は最大70万円の補助金がついていたと思いますが、現在の福岡市の補助金制度についてお聞かせください。

白水 たしかに、今年1月から3月にかけては、国の補正予算の関係で時限的に最大70万円の補助金制度がありました。しかし、今年度の4月1日からは工事費の23%、最大で40万円の補助金になりました。たとえば、100万円の工事なら23万円の補助金が出ます。昨年度の福岡市への補助金の申請件数は101件です。とくに1月から3月に上乗せがあつて

以降は大幅に増えたようです。

ちなみに北九州市の申請件数は13件だったようです。北九州市の補助金は、4月以降は福岡市と同じく工事費の23%で、最大は50万円です。福岡市に関わらず、この補助金制度はあまり周知されておらず、さらに周知徹底を心がけていく必要があります。

—現在、福岡市の住宅における耐震化率はどれくらいですか。

白水 08年の調査時点では77%程度(共同住宅なども含む)です。木造住宅のみで言うと、約66%です。現時点でも全体で80%はないと思います。

北九州市や久留米市など県内のほかの自治体と比較すると、進んでいる方ではありますが、スピード感では充分ではありません。他県、とくに静岡県や関西圏などではかなり進んでいます。

—最後に、耐震化の必要性についてお聞かせください。

白水 福岡市が出している「揺れやすさマップ」というものがあります。まず、このマップを見ていただいて、もし「警固断層」が動いたら、自分の住んでいるところがどれくらいの震度で揺れるかということを知っておく必要があると思います。

全国には約2000の活断層があります。そのなかでも「警固断層」が揺れる可能性は非常に高く、30年以内に地震を起こす可能性は最大6%と言われています。これは人間が痛にかかると可能性よりも高い数値です。ですから、まずは自分が住んでいる家の状態を知るためにも、まずは耐震診断を受けていただきたいと思います。

—本日はお忙しいなか、ありがとうございました。

(橋崎 賢治)

中央区
保存版

福岡市

揺れやすさマップ

～もしも警固断層南海東海で地震が起きたら～

最近の福岡市で地震が頻発したら、平成17年の福岡市地方自治体の頃よりもはるかに多くの建物が倒壊し、多数の犠牲者が出ることを恐れています。建物の倒壊を防ぐためには、建物の耐震対策が有効な方法の一つです。そのための目安となるのが、もしものとき、どれくらいの揺れが予想されているのか、この「揺れやすさマップ」で確かめてみましょう。



福岡市が発行している「福岡市揺れやすさマップ」